

教材研究等③ 「『会話支援ペンセット』を使った教材研究」
上手に伝わる成功体験を経験する機会の設定

実践例と解説

教材研究等

児童・生徒の中には、様々な事情で上手に話せない子どもがいます。また、聞き取りづらい、言い間違いが多いと指摘されたりすることを繰り返すことで、人に伝えることに対し、苦手な気持ちを持つてしまう子どももいます。

「言語くん『会話支援ペンセット』」は、専用ペンを用いて冊子の文字やマークをタッチするだけで、「おなかが痛い」など、記載されている言葉を音声で発信できます。また、よく使う言葉（名前や住所など）や災害時・緊急時にお願いしたいこと等を録音し、再生することもできます。

「伝わった！」という経験を積み重ねることで、児童・生徒の自信、自ら伝えたいという意欲の向上につなげられる支援機器です。



言語くん
「会話支援ペンセット」

使い方アイデア

【教員間で「言語くん『会話支援ペンセット』」を体験し、場面緘默や主に外国語を使用する等の児童・生徒の支援につなげる！】

冊子にない言葉（外国語なども含め）があれば、事前に登録をしておき、会話を続けてみましょう。

筆談とも異なる、音声での会話の楽しさが広がるきっかけ作りができると良いでしょう。

養護教諭とも連携することで、体調不良時に必要な情報を得ることもできます。

支援機器なので、次ページの参考例（①～③）を基に、関わる児童・生徒が日常使用するイメージを持てると良いでしょう。

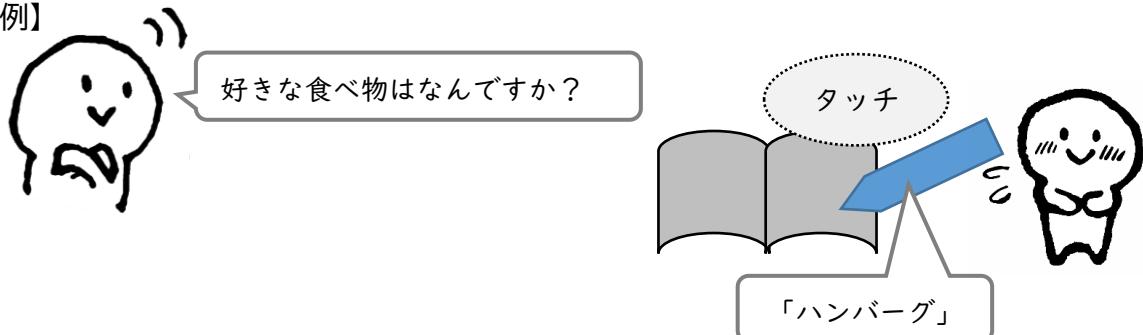


①② 場面緘默等のある児童・生徒のコミュニケーション手段の体験

- ① 体験者以外 → 体験者に質問する。

体験者 → 答えになる言葉を冊子から探し、音声ペンを使って返答する。

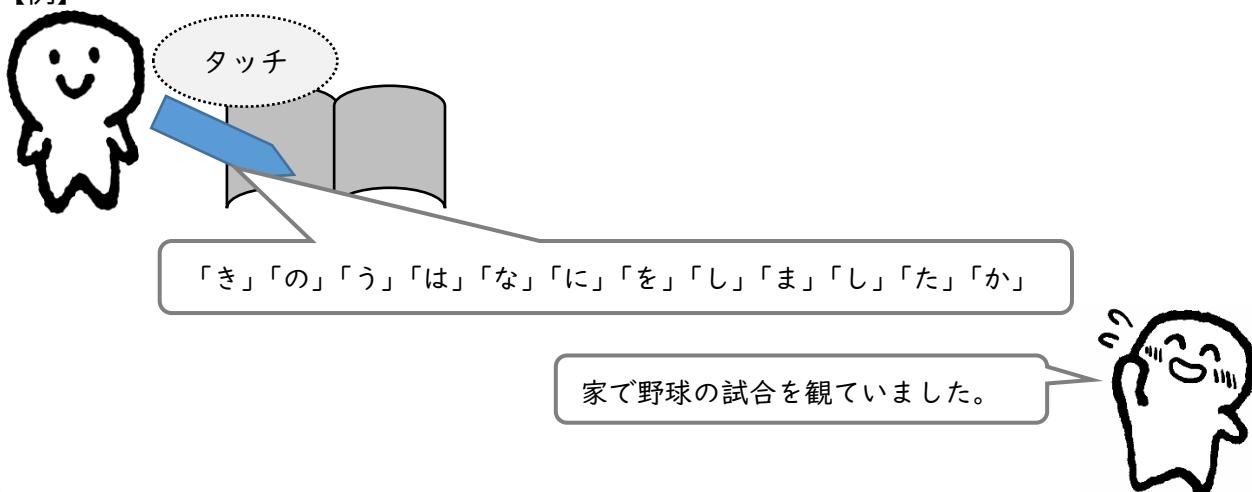
【例】



- ② 体験者 → 音声ペンで50音表を1音ずつタッチし、体験者以外に質問する。

体験者以外 → 質問に返答する。

【例】



③ 外国語を主に話す児童・生徒のコミュニケーション手段の体験

- ③ 体験者以外 → 自由登録できるページに、外国語であいさつを書き、音声は日本語で登録する。

体験者 → 書かれた文字を見て、必要なあいさつをする。

【例】

